令和3年度第1回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和3年7月29日（木）

開催方式：書面会議

議 題

- 1 コロナ下における子育て世帯への影響調査結果報告

配布資料

資料1

 コロナ下における子育て世帯への影響調査結果報告

出席者(氏名順・敬称略)

- 浅見 佳子 (相模女子大学准教授)
押田 剛 (主任児童委員)
賀川 祐二 (NPO法人 病児保育を作る会代表理事)
酒井 萌佳 (マミーズエンジェル墨田みなみ保育園施設長)
佐藤 順一 (吾嬬立花中学校長)
鈴木 真由美 (青少年委員協議会委員)
長 加誉 (区民公募委員)
○西島 由美 (にしじま小児科院長)
◎西村 孝幸 (小梅保育園長)
服部 榮 (社会福祉法人雲柱社理事長)
平林 秀敏 (墨田中学校PTA会長)
星野 操 (文花子育てひろば施設長)
松山 洋平 (和泉短期大学准教授)
宮田 宏子 (立花幼稚園長)
山中 育恵 (文花保育園長)
横井 貴広 (区民公募委員)
【◎：会長 ○：副会長】

<欠席委員>

- 会田 尚之 (第一寺島小学校PTA会長)
岡田 真 (江東学園幼稚園長)
甚野 永子 (墨中地区青少年育成委員会委員長)
田中 千春 (区民公募委員)
野原 健治 (社会福祉法人興望館理事長)
宮村 柚衣 (ちやのま保育園代表)
向井 一郎 (立花吾嬬の森小学校長)
山岸 優子 (区民公募委員)
米谷 亮比古 (区民公募委員)

「議題1 コロナ下における子育て世帯への影響調査結果報告」に対する委員意見

委員の皆様から以下のとおりご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえ、改めてコロナ下における子ども・子育てに関する課題を認識するとともに、関係部署と本会議結果を共有し、今後の子ども・子育て支援施策に活かしていきたいと思っております。ご多忙の折、貴重なご意見をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

委員意見 1	<p>おおよそ、予測された結果が出ていると感じています。</p> <p>日々、保育現場にいると、テレワーク等の働き方の変化に伴う保育の在り方の変化（例えば通勤時間がなくなることによる保育時間の短縮や父親の送迎の増加等）が起こっています。</p> <p>一方で、主に在宅子育て世帯の子育ての孤立という課題が懸念される状況となっています。これを機に、子育て広場におけるオンライン相談や公園の在り方等、区としても子育て部門を中心にしつつも、所管の垣根を超えた対応が求められると思っております。</p> <p>尚、現在の保育園では、現在、緊急事態宣言が出されていても、ほぼ通常通りの登園であり、昨年最初の宣言時とはまったく状況が異なっており、コロナ禍ということに社会全体が慣れてしまっているという印象を持っています。</p>
委員意見 2	<p>調査方法について</p> <p><u>保育園を利用している世帯のうち、そのまま保育園に通っていた子どもと、休園していた場合があると思うのですが、質問に対する答えの部分で、区別されていたのでしょうか？【質問1】</u>それによって、答えが違ってくると思いました。</p> <p><u>区の施設への相談件数が少なくなったとのことですが、乳幼児健診も中止されていたり、子育てひろばも縮小？されていたと思います。その辺の事情はどうなのでしょう？加味されての結果でしょうか？【質問2】</u></p> <p><u>子供への影響についての内容についての質問で、こどもの年齢によって異なってくると思いますが、子どもの年齢との関連はどうでしょうか？【質問3】</u></p> <p><u>そもそもの回答数の地域分布ですが、町によって差が大きいようですが、人口比などになっているのでしょうか？【質問4】</u>地域によって回答数が異なるのは、インターネットの普及状態とかなにか関係があるのでしょうか？</p> <p>リモート授業をしていた区の方に聴きましたが、1つのリビングで、高校生と小学生と幼稚園児がおのおのリモートで授業やお遊戯をしていたが、狭くて大変だったとのこと。墨田区のマンションはさらに狭いので、親のリモートワークスペースすらないと聞きます。（お風呂場でリモート会議など）</p> <p>今回のコロナは、子ども達が重症化していないので、なるべく保育園を閉めない方針でいけるとは思いますが、あらたな感染症が発生などした場合、子ども達に提供できるスペースが必要なのではないかと常々考えています。ドッグランではなく、チャイルドラン。アンケートに関係ないですが、ご検討お願いできればと思います。</p> <p>昔の墨田区は、路地で遊べましたが、現在では車が多く通ります。ひろばをつくるのは難しくても、街づくりで車の入らない、子どもが遊んでもうるさがられない路地のある町なども考えていただけると良いかなと思います。</p>

<p>委員意見 2 に対する事 務局回答</p>	<p>【質問 1 に対する回答】 保育施設利用世帯は問 4 で、緊急事態宣言期間中の子どもの保育状況は問 8 で確認できるようにしています。</p> <p>【質問 2 に対する回答】 調査結果報告 P. 24 (問 21) の分析結果を受けてのご質問かと思いますが、本結果からは区施設への相談件数の減少を確認することはできませんが、コロナ流行後に相談しなくなったと回答した方については、他の回答者と比べて、区施設を望ましい相談相手とする割合が高いことが読み取れます。つまり、区施設の相談受入体制が、相談者の相談頻度・相談の有無に影響しているものと思われます。</p> <p>【質問 3 に対する回答】 心身への良い影響については、年齢による差異はほとんど認められませんでした。心身への悪い影響については、「友達と接する機会が減ったこと」を主な原因に選ぶ回答者の割合が、年齢が上がるに連れて増加しています。また、「保育施設等の先生や地域の人と接する機会が減ったこと」を主な原因に選ぶ回答者の割合が、年齢が上がるに連れて減少しています。</p> <p>【質問 4 に対する回答】 回答者の地域分布については、就学前児童の町別の人口（令和 3 年 4 月 1 日現在）の割合と概ね一致しています。</p>
<p>委員意見 3</p>	<p>各項目の結果は肌感覚として感じていたことが表れていて、明確に数字で示されたことは意義深く、今後の施策上で大変有用な根拠となると思います。</p> <p>特に、テレワーク（外出自粛）により、「良い影響と悪い影響」があったことについて、悪い点を補う対策を早急に考えることはもちろんですが、良い点を伸ばしていくという視点の取り組みも期待されます。</p> <p>つまり子どもの育ちを保護者が身近に感じられ共に過ごす楽しさを味わう環境の保障と、人と関われなくなること、つながれなくなること、対応に困る場合等で起こるストレスや不安の解消策がポイントと感じます。</p> <p>今回の調査を通して、様々な研究にもありますが、乳幼児期の子どもや保護者にとって、直接的に人と関わる機会の保障がどれほど子どもの育ちの質に大切か、改めて感じさせられました。</p>
<p>委員意見 4</p>	<p>子どもへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区に求める子どもへの支援として、「先生や友達とのコミュニケーションを取る仕組み」が最も高く、次いで「家での遊びや運動の情報提供」が求められている。 <p>→今後感染者が更に増加していくと、登園自粛のお願い等も必要になるのではないかと思います。そのようなとき、感染状況にもよりますが、保育者や友達とのつながりをできる限り維持できるようにするために、人数を制限しての時差登園などの工夫があるとよいのではないかと思います。</p> <p>テレワーク等で時間の融通がきく家庭については、時差登園をしてもらおう。例えば、1 クラスを 2 グループに分け、1 日 3 時間程度の保育を行う。密を回避しつつ、子どもは友達や保育者とゆったり過ごすことができる。保護者も少し仕事や家事の時間を確保できるのではないのでしょうか。</p> <p>このような保育時間の中で、保育者は家での遊びにつながることを子どもの姿から考え、保護者に情報提供していくことで家庭での遊びや、地域での遊びに繋がっていくのではないかと思います。体力の低下を心配する声もありましたが、家の中だけではなく、家のまわりにある環境をいかした遊び等についても、保育者が提案していけるのではな</p>

	<p>いかと思います。</p> <p>そして、保護者とのコミュニケーションについてはオンラインを活用し、夜の時間や土曜日等に保護者同士が語り合える場をつくり、不安や様々な情報共有をしていけるとよいと思います。</p> <p>また、地域の子育て家庭に対するオンラインミーティングも行うとよいのではないのでしょうか。相談できる人がいないと言う人の助けになるのではないかと思います。対面よりもオンラインの方が参加しやすいという方もいるように思います。</p> <p>・「保育施設等の先生によるオンラインによる教育（歌・運動・遊び等）」という言葉には違和感があります。オンラインによる教育教材（歌、運動、遊びなど）は、山のようにあるので、個人で検索すれば探せるように思います。そして、それらとは異なる、保育者が行う環境を通じた教育について伝えていくことが必要なのではないかと思います。</p> <p>乳幼児期において、遊びがなぜ大事なのか。その遊びは、どのような環境の中ではじまるのか等について、保護者に伝えていくことが重要だと考えます。</p> <p>歌や運動を教えるのではなく、歌や運動を子どもとともに楽しむためにどんな関わりが必要なのか等、保護者とともに考えていく。保護者自身が主体的に考えることを支えていく機会があるとよいのではないかと思います。</p> <p>このような取り組みは、すでに行われていることかもしれませんが、1つの意見としてお伝えさせていただきました。</p> <p>コロナは保育・幼児教育の場を変えていくチャンスだと思います。コロナ後の保育、子育てに繋がる取り組みが行われていくことを願っております。</p>
委員意見 5	<p>この調査によって、あらためて、コロナ禍がもたらす問題点が明らかになったと思われました。以下に管見を述べさせていただきます。</p> <p>1 情報入手・提供の問題</p> <p>一般的には様々な手段でコロナに関する情報は提供されてきたと考えますが、IT情報の限界もあって、人と人との関わりの中で伝達される情報の大切さを再確認させられました。</p> <p>IT等で提供された情報が人と人との関わりの中で確認されていく大切さを感じました。</p> <p>コロナ禍の中で、公立の施設での働きはもちろんですが、そこからさらに地域に広がっていき働きかけが求められてくると考えました。</p> <p>育児休暇が延長される傾向にある今、保育園に通っている保護者と在宅で育児をしている保護者との交流の場も必要になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>2 子どもたちの問題</p> <p>公の施設が閉館並びに来館者制限などにより、子どもたちは遊びの場を奪われてしまいました。これは感染予防の面において、止むを得ない対応であったわけですが、運動力（体力）の低下、ストレスを抱え込むなどの問題も出てきています。これはコロナ禍</p>

の状況が改善されなければ解決できないと考えますが、収束を見据えながら、現場では対応策を今から考えていくべきであると思いました。

3 人間関係力の低下

調査では、この問題はストレスの増加という形で出ているように思いました。コロナ感染を防ぐには人間の関わりの場を避けるように言われています。

このことがもたらす問題が子育ての孤立化を招き、児童虐待に及ぶ例も挙げられています。これを少しでも改善していくためには、ワンストップ型の行政相談窓口の設置、地域の関係者、施設が一体となって取り組む必要があると考えます。

特に、生活に問題を抱えている家庭への支援は不可欠であると考えます。

4 相談しやすい窓口の設置

申請主義をとる現行の制度では、折角の施策が生きてこない場合があります。

地域関係者（民生委員など）、各施設が窓口になって、相談しやすい体制をつくれませんか。多様な窓口、親しみやすい相談者等を通して、区民の方々の問題を共に考えていくことができれば、だいぶ安心ができるのではないのでしょうか。

各施設や、関係者の家、地域の掲示板などに情報を掲示して、多用な場所で相談ができるようにしていけたらよいと考えます。

5 コロナの感染拡大への対応

予防接種が急速に拡大してきていることは、今後の安心材料になるかとは思いますが、先ず、今ある体制でできることに取り組むことが求められます。

今後自宅で療養する感染者も多くなると考えます。最近は家族感染も大きな問題になってきました。「明日は我が身」という不安を抱えて生活しています。

こんな時こそ、行政はポジティブメッセージを発して、コロナに対して共に戦う姿勢を区民に呼びかけていただきたいと考えます。

私たち区民も、行政と協力してこの状況に立ち向かっていきたいと考えます。

まずは、感染予防のための対応の遵守を。

6 アンケートへの対応について

自助が強調される時代ですが、問題解決の核は「共助」にあると考えます。

経済優先で来た日本社会は、「お金を出せば何を言っても良い」、といった利用者の傾向がみられる場合があります。コロナ禍はそんな理屈を超えてすべての人に災禍を及ぼすことになりました。

公と民の協力体制が求められてきているのだと考えます。

アンケートへの応答も行政と区民の協働で行くことが大切であると考えます。

コロナかがさらなる行政依存を増強するのではなく、既存の組織や施設、制度をまず機能させながら、コロナ後の変化に対応していく力を養っていきたいと考えます。これは子供たちも同じであると考えます。SDG s を再野に入れた取り組みなども有効であると考えます。

	<p>勝手なことを申しあげました。行政の担当者の方のご労苦にいつも感謝しております。「禍い転じて福となす」ではありませんが、コロナ禍が新しい協働体制の構築に繋がり、少しでも人々の幸せの実現に繋がって行くことを心から願っています。</p>
<p>委員意見 6</p>	<p>1 子どもへの影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも悪い影響ばかりではなく、家族で過ごす時間が増え子どもの成長を感じる事ができた、という回答が予想以上に多く、良い影響もあった事は安堵しましたが、この調査に協力頂けるようなご家庭での結果という事もあると思います。 ・悪い影響の回答に人とのつながりと身体を動かす機会の減少が多かったのは予想通りでした。 <p>2 子どもへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの悪い影響がそのまま親のストレスの原因になっている事が多く、その為の支援のニーズが高い事につながり、わかりやすい結果でした。まだ予約制ではあるが、子育てひろばにそのニーズを求める人が多い事にもつながり、よりニーズに応えるプログラムなどの取組みの必要性を感じました。 ・子どもの成長や子育てに人とのつながりが必要と感じている人が多いのは嬉しい事でした。コロナ禍で希薄になった事で、改めて必要性を感じたのかもしれませんが。 <p>3 保護者への影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でストレスを感じる親の割合が在宅よりも在園家庭の方が多というのは、休園になり在宅ワークをしながらの子育てを負担に感じたり、感染防止の為外出を控えたり、在宅家庭よりも変化が大きかったからだと思います。突然休園になったり、在宅ワークの家庭には協力を求められるなど、コロナ禍で仕方ないと理解はしますが不満という声はひろばの利用者から聞こえました。 ・人とのつながりが減少した事で相談も受けにくくなり、そうした人がストレスも高くなっているという結果がデータ化され分かりやすく参考になりました。ひろばの利用制限はありますが、電話、メールの相談業務は制限なく行っている事を認知されるように広報していきたいと思います。 <p>4 保護者の子育ての相談状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談相手が身近にいない人の多くが区の相談窓口を利用しているのに、全体の4割も人が相談窓口の存在自体知らないという事実は憂慮すべき事で、もっと広報に力を入れ、来館する余裕のない人の為の電話やメール相談が気軽にできる事を知らせたいと思います。 ・子育てのストレス軽減のための育児サポートとなる一時預かり保育をもっと気軽に利用してもらえるように広報し伝えていきたいと思います。 <p>※今回のアンケートは、コロナ禍における子育て家庭の実態がわかる貴重な資料となりました。職員全員に回覧し、参考にさせて頂きました。この特殊な状況がまだ続きそう</p>

	<p>ですが、将来的に子ども達にどんな影響を及ぼすのか追跡調査があると施策にも反映できるのではないかと思います。</p>
委員意見 7	<p>昨年の2月以後、コロナ禍において大人だけでなく子ども達も不安を感じたと思います。私自身も近隣小中学校の学校行事も出席出来ず、近隣小学校の読み聞かせや児童館での学習支援も行っておりません。今回のインターネット上のアンケートの調査結果は非常に興味深かった次第です。まず本所地区と向島地区に大別すると本所地区の方がネット利用者が多い事と、一人っ子の多い家庭が多い様に実感します。しかも自宅で子どものきょうだい（兄姉）が保育した0.6%に驚かされました。研修会でヤングケアラーの実態を見聞きしたものの、身近な墨田区内において約4世帯が存在するのに驚きました。誤差が±4.8%とはいえコロナウィルスで浮き彫りにされた現実です。又、Q21 相談相手として望ましい相手…に子育て支援総合センター等や児童館等が流行後に相談するようになった事例が多い事が判って良かったです。実際、子育て支援総合センターの職員と一緒に活動する事が多く、知識の多さに驚かされます。同様に児童館の職員も学童という重要な役割を果たす為に、利用者の性格などを把握されていて驚かされました。多くの家庭で子育てをしながら不安な日々を過ごされていると思いますが孤独にならず区の組織や情報をフルにご活用して下さい。</p>
委員意見 8	<p>コロナ禍における家庭状況を把握する上で、貴重な資料となると思います。個人としても大変参考になりました。</p> <p>1 調査全般について</p> <p>本調査は、未就学児世帯を対象としているものとなっています。それは行政の担当課の所管という事だと思いますが、子育ては、最低でも義務教育まではそれに当たります。もちろん、それ以上もありますが、タイトルの様に「子育て世帯への影響調査」という事であれば、教育委員会とも連携した調査とすると、より子育て世帯の実態把握ができるものと考えます。本調査の内容であれば、「未就学児世帯の影響調査」が適切と考えます。</p> <p>これに付随し、本会議の構成員が分からないですが、私の様に学校等の教育関係者がいるのであれば、就学している子どもや家庭に触れる、影響に関する設問も入れるといいと感じます。例えば、義務教育にあがるにあたっての不安など。</p> <p>2 属性について</p> <p>属性（Q1-4）について、北部地域の回答者が極端に少ないですが、これは何かあるのでしょうか。世帯の意識が北部と南部で異なるのでしょうか。アンケート含め、参加することに対する意識が地域で分かれていることが分かれば、関係機関でその意識を変える働きかけなどの対応も検討できるかと思います。</p> <p>3 子どもへの影響について</p> <p>外で遊べなくなったこと、身体を動かす機会が減ったことが大きな原因と出ています。コロナ禍において公園の封鎖などはなかったのですが、これは感染対策で公園などに連れ出すことに恐怖心や抵抗感があつたことが原因と考えてよろしいでしょうか。</p>

	<p>4 保護者への影響について</p> <p>核家族、共働き世帯が多い中、Q6、Q7においてテレワークを取り入れている世帯がこの調査に回答した世帯が多く、このアンケートに回答した世帯で、子育てに対しサポートしてくれる人がいる環境と考えます。</p> <p>一方、Q15-2において「子育てに孤独を感じる」、Q20において「相談する相手がいない」という回答が多い回答となっています。</p> <p>この内容に関連して、Q21では、相談した相手では配偶者が多い回答となっており、Q19では、相談相手の理想は配偶者となっています。</p> <p>であるにも関わらず、Q15-2の回答では、平成30年度の調査に比べ、令和3年度の調査では、孤独に感じる割合が増えています、ということですが、家庭に父親がいる環境において、夫婦で子育てができる環境にあるにも関わらず、不安に思う要因は何か、なぜなのか。</p> <p>これを見ると、配偶者の子育てが機能していないのか、子育てに参加していないのか、家事などに参加していないのか、様々な要因が裏に隠れている感じもします。</p> <p>この調査に離婚率などのデータも参考に重ね合わせると、よりいろいろなことが見えてくるかとも考えます。</p> <p>この結果から、子育てしている当事者が支援してもらえ、または支援してもらっていると感じる環境にないことも考えられます。</p> <p>このことから、例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父級学級（パパのための出産準備クラスなど）、両親学級などの強化 ・パートナーへの配慮 <p>など、この調査を深く読み解き、さらにその回答への背景をより追及することにより、施策への反映にもつながる貴重な資料となると考えます。</p> <p>5 子育てに関する情報の入手について</p> <p>相談相手として、行政の相談機関を挙げている割合が多い結果となっている反面、相談機関があることが知らない割合が多い状況です。ただ、相談機関があることを知らないだけでなく、「その機能を知っているか」の設問を設けることにより、知らない人の割合が増えるのではないかと考えます。孤独を感じる人が多い中、第3者的な相談機関の機能などを利用することにより、その解決は図れてくると考えますが、そもそも、子育てに関する情報はどのように入手しているのか、その調査もあってもよかったと考えます。恐らく、現在はFacebookなど、SNSで情報を入手する割合が多いかと考えますが、子育て世帯の実態を知るにより、その対応の幅も広がってくると思います。</p> <p>なお、学校ではメール配信により情報を入手している保護者が大半です。</p> <p>出産後、メール登録していただき、DMにより情報を送るなどすることにより、情報を入手するなど、子育てする親を孤独にさせない工夫も色々考えられると思います。</p>
委員意見 9	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者が少なく残念ですが、回答は区の施策に活かせる結果が得られたと思います。 ・各子育て機関へ周知して下さっていたかと思いますが、アンケートにいかにか答えていただけるかが課題と感じました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・結果まとめは、主となる返答が見やすい形に仕上げられていて見やすかったです。 ・コロナ禍の中の子育ては、保護者の置かれた環境に左右されますが、コミュニケーション不足、同年齢の子どもの子育ての見本を見る機会が少なくなったことも核家族で暮らしている現代の子育て世代には、ストレスフルのかかる要因だったと思います。 ・保護者の余裕のない状況が虐待を生む原因にもなっているので、相談の出来る区の施策をいかに知ってもらうかがカギになってくると切に感じたアンケートに仕上がったと思います。 ・子育て世代のコミュニケーション方法にどう食い込んでいくか、と感じました。
委員意見 10	<p>コロナ禍ということで、子育てに対する不安やストレスを感じているということがこの調査でよくわかりました。また今後、この不安や悩み、ストレスが少しでも様々な方法で緩和されるためにも重要な資料になると感じます。お子様の年齢によっても悩みやストレスを感じる場所は違うと思いますし、また保育園等に預けているかどうかでも悩みの部分などは異なると思いました。個々に対応していくことは難しいかもしれませんが、区の相談窓口を知らないと答えた方々が、少しでも話すことができる機関があるということを知るだけでもストレスが緩和されるのではないかと感じました。そのためには、曜日や時間等様々な保護者の方々に対応できるよう、区の相談窓口と保育園等の施設が一体となって今後取り組んでいくことが、保護者の方々への支援になるのではないかと思います。今までの、園としては子育て相談会等も実施してきましたが、園ごとに実施してきたかと思しますので、区の取り組みとして今後はおこなっていくことで、コロナ禍という状況でなくなったとしても、今後の子育て支援としてもより良いのではないかと考えます。保育園に入ることができないという方々は、それ以前にその点に関しても不安を抱えているかと思しますので、この調査やコロナ禍ということを引きかけに、子育て支援がさらにできるよう、保育園としても力をいれていけたらと思います。また、幼児の無償化が始まったことから認証保育所のニーズが低くなっていることを感じているため、認可化や助成金の上限を認可と変わらないようにする等ができると、より利用しやすい施設になっていくと感じております。</p> <p>今回の調査から、どのような対応ができるかを考えることができ少しでも実施することができたなら次回また調査をする際に、新たな課題や振り返りができ、更に墨田区が良い地域となっていくと感じました。</p>
委員意見 11	<p>1点目は相談についてです。</p> <p>予防接種は進みつつありますが、コロナの感染が拡大している状況の中、子育てひろばや児童館などの施設の利用制限を緩和、現時点で解除するのは難しい感じがします。都内の他特別区でもオンラインによる子育て相談が各所でやられてきているようですので、コロナの予防期間限定かもしれませんが、セキュリティについて精査しないとならないと思いますが、導入の検討をすることは必要ではないでしょうか。導入を検討する場合、入口的な相談から専門相談まで幅広い相談事がくると思われますので、関係部署間もオンラインでつなぎ、利用者からの相談があった際には、極力その場で解決していけるような仕組みができると素晴らしいと思います。</p> <p>小さい赤ちゃんがいる家庭においては、コロナの状況に関わらず、来所が難しい場合もありますので試す価値はありそうです。</p>

	<p>2点目は施設等の利用制限の緩和についてです。</p> <p>今後、より予防接種が進んだとき、また治療薬が出来たりなど、いくつかの要素が整えば、子育てひろば等の利用制限緩和を行える時期が来ると思いますが、どのような状況になれば、一定の制限緩和が出来るのか、今からシナリオを作っておくことは必要かと思えます。出来るかどうか分かりませんが、そのシナリオを、修正もありえることを前提としつつも住民に公開していくことで、見通しがたち落ち着かれる方も出てくるかとも思えます。</p> <p>3点目は家事育児のサポートの希望が多い件についてです。</p> <p>私たちは子育て支援ネットはぐの運営をしています。昨年春から夏くらいまでは、利用が大幅に減り、その後、今年の6月くらいまで例年の8割程度の利用となっていました。</p> <p>しかし、今年7月については利用が急激に増え、コロナ前を上回る水準の利用になりました。ただ、これは特定の風邪が流行って病気の子の利用が増えたのが最も大きな要因です。</p> <p>このアンケートでは家事・育児のサポートが多い結果となっていますが、7月は別として、どのような背景を持つ方がどのような理由でどのようなサポートを希望しているのか、今一つ分かりません。可能であれば、追跡調査をしていただけるとありがたいです。</p>
委員意見 12	<p>利用する区民の立場で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の相談窓口を利用したくない理由として、「相談窓口の開設曜日・時間が合わないこと」や「相談するための時間がない」ことが主な理由となっている。 <p>この部分の設問・回答が気になりました。</p> <p>体験者として、長男の発達障害について、1歳児クラスの頃から保育園より指摘は受けていたものの、療育機関にじのこで支援を受けられるようになったのは4歳で、それまでの間、区の検診や個別相談、支援センターでの個別相談でも具体的な支援には繋がらなかった経緯があります。結局は3歳クラスで転園した保育園の巡回の心理士さんからの強い指摘でやっと支援に繋がりました。</p> <p>多くの保護者は、育児に悩みを抱えていても、相談窓口連絡を入れ、予約を取り、その日を待ち…という手順にはハードルの高さを感じると思っています。自身の悩みがそこまで（区の相談窓口を使うほど）深刻なものなのか？という自問もあると思います。そこまでして利用してみたものの具体的な手助けは得られなかった経験をしてしまうと、さらに区の相談窓口からは遠ざかっていくと思えます。</p> <p>一番良いのは、児童館や子育てひろばなど、日常的によく使う施設で、ある程度まとまった時間子どもの様子を見てくれた職員の方をお相手に相談できることだと思います。なので、区の相談窓口の周知、体制の強化等よりも、そういった、日常的に育児世代が利用できる施設をより充実させることの方が、結果的に育児環境が改善すると思います。ただ、このコロナ禍でどのように育児世代が利用できる施設を開放し続けるかということは課題ですね。</p>

委員意見 13	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で家族のコミュニケーションが増えた家庭と、より生活が困窮し保育の負担が増えた家庭の二極化が進んだ気がします。 ・保護者のストレスの増加は必ず子供に伝わるので、保護者・保育者へのカウンセリング等の心のケアが大切だと思います。 ・区の相談窓口を利用したくないのではなく、「利用できない」のであって、時間や曜日の多様な対応が必要だと思いました。 ・5割以上の方が支援を望んでいる「家事・育児」サポートで即効性の高く不公平感のない支援は何かを考えるべきだと思います。
委員意見 14	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、幼稚園等の臨時休業、保護者自身のテレワーク等の期間、「悪い影響があった」→「人とのつながりの減少」「体を動かす機会の減少」という結果について、保育施設の役割の大きさを改めて感じました。 ・子育てに対するストレスについて、保護者が気軽に相談できる窓口等の情報を得やすい体制作りが必要であると感じました。
委員意見 15	<p>調査結果報告の中でどれもうなずける結果となっていました。</p> <p>中学校における学校教育と関連して報告の中で2点感想を述べさせていただきます。</p> <p>1 P8「子どもへの影響」において</p> <p>悪い面はP10にある項目に加え、生徒間のSNSの中傷等ネットトラブルが以前より増加傾向にあります。学校では年度当初より教育課程の中でセーフティ教室を実施するなど未然防止に努めているが、指導する場面が減少していないのは事実です。今後も道徳教育と関連させながら情報モラルについて指導を続けて行く予定です。</p> <p>よい面はP9にある項目に加え、教育委員会主導による「学校GIGAスクール構想」に基づき生徒一人一人にタブレットが配布されました。これまで教師が紙で実施していた課題等をデータで配信、生徒がデータで返信など効率のよい学習が推進したことです。</p> <p>小学校入学前に児童に携帯を持たせる前に保護者対象にネットトラブルやゲームでのトラブルについて啓発する必要性を感じます。</p> <p>2 P16「保護者への影響」（「子育てに不安や孤独を感じることもある」）において</p> <p>保護者の不安や孤独を学校の面談等で把握することが以前より多いように感じます。生徒以外にも保護者を支えるためにスクールカウンセラーやソーシャルスキルワーカーを紹介することがあります。孤独や不安を抱えた家庭が子育てひろば、保育園、幼稚園等の保育機関や教育機関から児童相談所や子育て支援総合センター等の支援関係機関とつながり、関係が強化されることを願っております。</p>
委員意見 16	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果から感じたことなど 1 「5保護者の子育ての相談状況」に表れている『相談する相手がいなかった方の希望する相談先として、区の相談窓口の割合が他の回答者と比較して高い。』と期待の高さが出ていたのですが、『具体的な窓口を知らなかった』と回答があり、その中の4割が利用したいと思っている結果です。今、区の相談窓口に足を運んでもらうには、『相談できる人』の中で大きく占める『親族や友人と一緒に』に行くことが大前提にあると思います。特に父親の育児参加は増えています。 2 一緒に窓口に来ていただき、相談を受けるためにも開場の曜日や時間には配慮が必

	要だと思います。交代制勤務が可能でしたら、今後は土曜なども利用できる体制づくりが望ましいと思います。
--	--